



白黒はつきり！

# いなば卓夫活動報告

平成22年3月28日発行

## もったいない新聞

無所属・無派閥・市民党 市民本位の市政を創ろう！

★★★★★  
★★★★★

もったいない(勿体無い)とは、仏教用語の「物体(もったい)」を否定する語で物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表している。環境保護活動家のケニアのフナリ・マータイさんが世界に広めました

手作り新聞・発行人  
いなば卓夫を支援する会  
〒321-1415 日光市日光 2445-12



# 今こそ、矢祭改革に学ぼう！

## 合併した今こそ、行政と議会のムダを徹底的になくそう

### 日光市を第二の夕張にするな！市政にコスト感覚を。

河村たかし名古屋市長は昨年7月、公約通り市長退職金4,220万円を全廃しました。報酬も年800万円に大幅に引き下げました。(人口は226万人)

「合併しないとやってけない！」と言って合併した新日光市なのに議員、市長などの報酬(市民のみなさまの税金)は高い方に引き上げ。この4年間、私から見れば、なんの改革も結果も出していない慣れ合いの日光市議会。議会活性化検討特委で視察旅費ひとり12万円を9万円にしたのが改革なのでしょうか。ほんとうに必要なのでしょうか。

#### ● 議員・市長・副市長の報酬を大幅に削減します。市民が主役の市政を！

副市長を一人にし、議員、市長、副市長の報酬を旧日光市並みにしていれば、4年間で約2億8,000万円の節約ができ、市民みなさまのための福祉や教育の充実に使えたのです。貴重な税金が余分な人件費に消えてしまいました。このままではムダが続きます。市民が主役の市政を！



現職のとき、訪ねた私たちにポケットマネーで買ったインスタントコーヒーを根本良一町長自らいれてくれました。心のもったいおてもなしに感激しました。

#### ● 副市長はいらない。矢祭町ではひとり三役。情性の行政に喝！

選挙で選ばれていない副市長の一期4年の報酬は4,602万円。退職金はなんと1,003万円、合わせて5,605万円。こんな高給取りが日光市には二人もいるのです。副市長はいなくてもやっていけるのです。部長が市長代理を務めればそれで済むのです。矢祭町の自立総務課長の大串さんは山村開発センター所長、ふるさと創生推進センター所長も兼ねており、大忙しです。副市長二人制は「合併しないとやってけない日光市」にはゼイタクです。倒産しそうな中小企業が副社長二人を雇うことはできないのです。二人の副市長とも市職員の延長です。いま問題の独立行政法人などで退職金を何度も受け取る「渡り」と同じです。外部から民間の感覚を持った優秀な人材を部長級で登用することも可能なのです。慣れ合い、情性の行政はストップしましょう。



前矢祭町長 根本良一さん  
ヤサイ町、と呼ばれていた人口6,600人の矢祭町が一躍全国的に有名に。「合併しない町」を宣言し、自立の街づくりに乗り出す。副町長以下全員で便所掃除。議員報酬日当制の採用。全国から送ってもらった45万冊の本で作った「もったいない図書館」。前長野県知事・衆議員議員の田中康夫さん、河村たかし名古屋市長も「根本哲学を」学びに矢祭に。いなば卓夫も教えを乞っています。ひとり何役も兼ねる町の行政組織。日光市も学ぶべきことがたくさんあります。

#### ● 行政にコスト感覚を。市職員日給 25,000円

年収600万円の公務員の時給は約3,100円です。日給約25,000円です。日光市長は年収1,474万円、時給約8,000円、日給約64,000円(一日8時間労働、含む退職金。稲葉の試算)です。退職金は一期4年で2,112万円です。「民間で4年働いて退職金をくれと言ったら、バカヤローと言われる」と名古屋の河村市長は言っています。パートの方々は時給800円くらいで働いている人が大多数です。こんなに多額の報酬を平気で貰っている人に庶民の生活の苦しさが分かるはずありません。庶民感覚と掛け離れた税金の使い方を徹底的に見直し、効率的な行政を推進します。行政も市民も意識の改革(コスト感覚)が必要です。自治体破綻は悲惨です。日光を第二の夕張にすることはできません。財政難の今、市長自らが率先して範を示さなくてはなりません。

#### ■ 慣れ合い議会はやめよう！各地域の意見が反映できる議会を！

平成15年、私は日光市議会一般質問における一問一答方式を提案し、その後実現しましたが現在の日光市議会では行われていません。今は議会の前に議員が「質問通告」を行い、各課で答案をつくり、「この答えでいいでしょうか」と課長が議員のOKをもらう。まるで「茶番劇」のような儀式を行っています。こんな議会では活発な議論ができるわけがありません。どうして一問一答方式を採用できなかったのでしょうか。日光選出の議員はなぜ主張しなかったのでしょうか。こんな慣れ合い議会に市民の税金を使われたらたまりません。平成21年の会期は93日間、休会日が約50日あり、実際に議会があるのは約40日でしょう。地方自治法に定例会は年4回と決められていますが、会期の定めはありません。1回90日にすれば通年開催できると私はかつて議会で提案・主張しました。地域間格差やハコモノ行政、日光市政は課題山積です。行政が複雑化した今日、市民の代表者として専業で議員活動をするプロが必要です。市民に兼業議員を雇う余裕はありません。

たった4年で8,000万円もの税金投入。悪いのは破綻した制度を変えない国。何も言わない議員。みんな税金だから……？

議員年金はすでに破綻しています。

#### 掛け金も税金(給与)、市税からも16.5%の負担金

年度	議員数	月額負担金	年合計
18年度	30	1,197,000	14,364,000
19年度	30	1,767,000	21,204,000
20年度	30	1,881,000	22,572,000
21年度	30	1,881,000	22,572,000
4年間の計			80,712,000

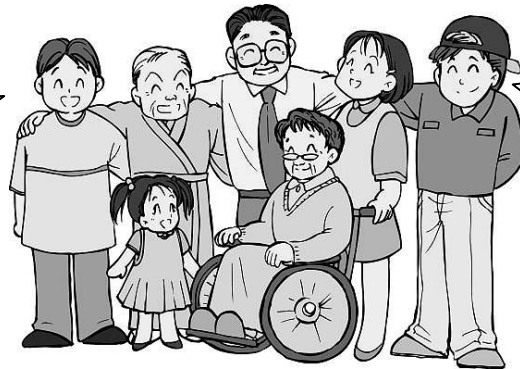
「この4年間、市政の情報が全く届かなかった」という市民の声が上がっています。

#### いなば卓夫の市民参加の議会改革案

- ① 議員報酬の大幅削減と議員年金の廃止。
- ② 議会の通年開催と移動議会の開催。
- ③ 公聴会等市民が発言できる場を創設。
- ④ 市民がつける議員・市長の通信簿。
- ⑤ 地域の代表を出せる小選挙区制の復活(公選法第15条6項、条例で選挙区を設けることができる)議員削減は地域の代表を出せなくなるので検討が必要です。

たくお  
いなば卓夫は「住みたい街日本一の日光」をつくりまします。

新潟県中越地震でも大活躍したコミュニティ・ラジオ。「FM日光」をつくり、栃木の元気を日光からつくり出そう。コミュニティFMがないのは全国で栃木県だけ。やっぱ遅れてるー。



エフェムができるとう日光詣に来た内外からのミュージシャンもゲスト出演してくれるね。平原綾香さんも来てくれるかな。世界の日光だもの、きっと来てくれるさ。中禅寺湖畔のスタジオもいいね。世界に発信できるんだね。

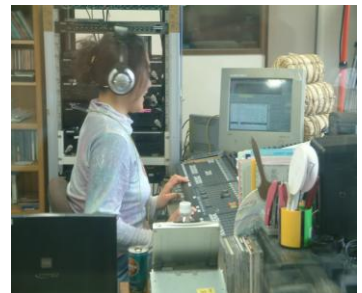
福祉の街、環境の街、教育の街、芸術・文化の街日光を創り、市民の働く場の創出に努めます。「FM日光」をつくり、みんなで日光の夢と未来を語り、一体感のある温かみのある日光市を築きましょう！新潟県中越地震では防災無線は役に立ちませんでした。大活躍したのがコミュニティ・ラジオ。FMながおかでした。高山市、浜松市に次いで、日本で三番目に広い面積の日光市。市民の命を守るためにも必要です。

◆いなば卓夫がいま、取り組んでいること◆



FMながおか社長、脇屋雄介さんから防災ラジオの説明を受ける。熱海市でも防災ラジオが大人気！1個200円で市民にラジオを配布。AM、FM、同報防災無線が受信でき、市民からも大人気。中越地震の時は電気がつかず暗い中、家庭用発電機で放送した。長岡市民も情報がない中、身近な防災情報を「FMながおか」で得ることができ安心感を持てた。

①レディオベリー営業課長の経験を生かし、災害時に役立つコミュニティ・ラジオ『FM日光』をつくること。栗山・足尾・藤原・今市・日光地区の全域で情報共有ができるのです。災害時に災害情報を迅速に届け、私たちの大切な命を守ってくれます。新潟中越地震のときにも大活躍しました。ふだんは観光客への情報提供や身近な地域の生活情報(商工会や議会の情報等)を発信でき情報が共有できます。災害時に防災無線はあまり役に立ちませんし、今市・栗山地区に同報系防災無線を設置するには数十億円かかります。コミュニティ・ラジオの開設費用は約5千万円です。



女性アナウンサーが交代で地域の生活情報を伝えている。

全国にはすでに236局あり、コミュニティFMがないのは栃木県だけになりました。日光で最に初つくりよう！

②環境のことを真剣に考え、足尾町松木で植樹活動に参加しています。この地球が酸性雨で悲鳴を上げています。微生物が住める土壌に改良することが急務です。やがて人間の住めない地球に…。NPO法人「森びとプロジェクト委員会」理事として、足尾町松木・八幡平の植樹活動と炭を使う土壌改良を通して森や自然の大切さを広めています。地球を守ろうという意識の方々に参加しているNPO法人です。みなさまのご参加を心からお待ちしています。

③農薬使用量を減らし、子供たちにも安全な食卓を！

農薬使用量、世界一位はダントツ日本です。中国の約2倍、アメリカの10倍以上です。このままでは人体に影響が出ることは確実。もう出ているかも知れません。安全な食を守りましょう。

④環境にやさしい軽自動車の普及・推進と軽自動車税の値上げ反対。(ナンバープレートの色も検討)軽自動車は環境や道路への負担(道路損傷度は普通自動車の1/3です。2トンクラスとでは約1/16です)が少なく、大きな車に比べるとエコな乗り物です。しかし、いま中央の一部に普通車との税金格差(普通自動車1,000CCは29,500円、軽自動車乗用は7,200円)が大きいため値上げをすべきだという声があります。軽自動車はセカンドカーであることが多く、地方都市での庶民の足となっており、現行税制を守るために頑張ります。

◆ナンバープレートの色は現在、黄色になっていますがファッション性を考慮し、色の変更や選択制を国会議員に提案しています。

⑤自殺者を減らす取り組み。残念なことに毎年3万人以上の方が自殺しています。この32年間で84万人以上の方が自殺しました。今の社会は夢や希望が持てないばかりか、地域に助けあいの精神が失われました。誰もが病気や生活苦で孤立することなく手差し伸べてくれる行政が求められているのです。

⑥生ごみを燃やさない取り組み。

高いお金で輸入した石油で生ゴミを燃やす馬鹿なことはやめて、バイオマスで活用します。日本の焼却場の数は約1,300か所。世界の三分の二が日本にあるのです。詳細はホームページニュースレター平成18年3月18日号をご覧ください。



足尾町松木溪谷に多くの仲間と木を植える。森びとプロジェクト委員会も今年で6年目を迎える。数十センチの小さな苗が今や4メートル以上の大きな樹になりました。

【いなば卓夫プロフィール】

●昭和25年5月5日渋谷区生まれ。(59歳) ●慶應義塾大学法学部政治学科卒。●衆議院議員渡辺美智雄の秘書を19年間務める。その間、厚生、農林水産、大蔵、通産、外務の各大臣副総理秘書として日本の政治に携わる。IMF総会、世界銀行総会等に随伴。アメリカ政治研修(短期)経験あり。●FM栃木(レディオベリー)営業課長として開局に携わる。●参議院議員国井正幸氏の公設第一秘書。●日光市議会議員一期。教育民生常任委員長 ●趣味は写真、アウトドア、野菜づくり、日曜大工。●本籍:日光市御幸町578

●現在、NPO法人森びとプロジェクト委員会理事、熊森協会正会員、伝統を未来につなぐ会会員

■いなば卓夫を支援する会事務所:日光市日光2445-12(萩垣面)

☎&fax 0288-50-1380 E-mail: inabatakuo@yahoo.co.jp

☎携帯 090-9203-1783 inabatakuo@ezweb.ne.jp

※ホームページ:http://inabatakuo.jimdo.com/ を開設しました。ぜひとも「活動報告」をご覧ください。



ボランティア募集中!

ビラ配り等のボランティアをお願いします。